



国内でここだけ 大気の流れを知って地球環境の変化を監視 ～ 摩周湖の水を調べて～

北見工業大学は、
摩周湖に最も近い国立大学
です。1994年からその水
を調べています。

これまでに、
アジア圏で農薬として盛んに使われてきた
BHCという殺虫剤は、1980年代半ばに
使用禁止となりました。その効果が大気に
表れ、さらに摩周湖水に敏感に反映されて
BHCの濃度が減っていく様子をはっきり
ととらえました。地球規模での大気の流れ
が水環境へ与える影響を知るための貴重な
観測を続けています。

摩周湖は

大気の流れを検出しやすい湖

- 流れ込む川・流れ出る川がなく、
主として雨水と雪だけが溜まります。
- 湖水を直接汚す農地や集落、
工場などが周りにありません。

北見工業大学では、
水1リットルに10億分の1gレベルの
超微量の金属を検出できる“高感度”な
分析方法を開発しています。

最近では、
石油などを燃やした排気から大気中には
らまかれたと考えられるニッケル (Ni)
粒子が、摩周湖の水に入り込んでいる
ことが分かりました。

摩周湖の水を分析すると、
人の生活の影響で、大気の流れが、
どれほど水環境に影響を与えているのかを
知ることができます。

